



みよし剛史



塩沢みつえ

発行：日本共産党
福山市議会議員団
津之郷町津之郷 970-1
084-952-2662

2026年3月議会報告

こども居場所の充実を

昨年3月に市が行った小学生アンケート調査では、「友達と気軽に立ち寄れるところがほしい」「中学生が遊べる場所、勉強やスポーツをするところが少ない」などの子どもたちの声や、市議会主催の報告会などを通じて、猛暑で外遊びができない状況の改善を求める保護者の声が上がっており、安全で自由に過ごせる居場所の整備が課題となっています。



一般質問を行う塩沢みつえ市議

安心の夏の居場所 施設活用で確保を

しかし、酷暑から健康を守る居場所の確保は急務であり、塩沢市議は当面の手立てとして、空調設備のある学校の教室や体育館、コミュニティセンター等、既存施設を活用するよう求めました。

市長は、交流館や支所の市民サロン、放課後の教室が活用されていると説明しましたが、既存施設の活用を「検討する」と応じました。

ただの居場所でなく 専門員の配置を

市は、ネウボラセンターには保健師、社会福祉士、公認心理士などを配置して相談機能を充実させる考えですが、交流館のキッズスペースは場所の提供のみです。

塩沢市議は、子育てを巡る不安は複雑化しており、それぞれの居場所にも専門員を配置し、地域の子育て支援の機能充実を求めましたが、市長は、「悩みの事相談があった場合、相談窓口につなぐ」と述べるにとどまりました。

子育て支援の拠点 児童館の設置を

塩沢市議は、「居場所」に求められている機能のすべてを有しているのが児童館であり、福山市でも児童館設置に踏み出すよう求めましたが、市長は、「児童館が担うべき機能は、既に市内に展開されている」との認識です。他の市町では当たり前の児童館の意義を再考すべきです。

5年で49億円の少子化対策 望む生き方支える社会に



少子化対策について質問するみよし市議

望む生き方の支援 ジェンダー平等を

市長も「自身が望む生き方を実現できる環境を整えていくことが重要」との認識を示しており、若者や女性の自己実現を阻んでいるジェンダーギャップの解消に向けた取り組みがますます重要です。

みよし市議は、24年度の福山市職員における男女の給与の差異が、男性に対して女性約74%であることを示し、市として格差の是正に取り組むよう求めました。

市長は、給与差が生じている要因は、「相対的に給与水準の低い非常勤職員に占める女性の割合が男性より高いこと」としつつも、「国や民間の給与水準との均衡の原則」に基づいていると、妥当との認識です。低い給与水準を改善しなければ男女格差は埋まりません。

SRHRの理解は 女性の権利擁護と

5か年プランでは、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）の理解推進などは位置付けられているものの、DV被害など、多くの女性に対する人権侵害に対する支援策については言及がありませんでした。

みよし市議は、女性の自己決定への理解と権利擁護の機能は不可分ではないのかと、認識を質しましたが、市長は「SRHRも踏まえ、女性の権利擁護につなげていく」と答えるのみです。

不安に寄り添う 温かい施策充実を

働き方の改善による家族時間の確保や、子育てにかかる負担の軽減、若者が過ごす環境の充実が重要ですが、それ自体を少子化対策と捉えることは誤りです。

誰もが今の暮らしや将来への不安なく生きられる社会の構築こそが必要です。